



第3回 浜松市教育研究会 算数科研究部研修会のお知らせ

- 1 日時 令和5年10月25日(水)
- 2 会場 静岡大学教育学部 附属浜松小学校
- 3 日程及び内容

- (1) 受付 13:30~13:50
- (2) 授業 14:00~14:45

学年	単元名	授業者	助言者	場所
5年	単体量あたりの大きさ	鴻池 俊介 (豊西小)	村松 一彦 校長(富塚小)	体育館
6年	比	佐々木 亮 (蒲小)	宮原 愛 指導主事	多目的ルーム

※ 写真・ビデオ撮影は御遠慮ください。

☆ 授業のみどころ (小学校) ☆

5年生「何がどう変わる? (単体量あたりの大きさ)」鴻池 俊介 先生

焼きそばの具を買う場面で「単体量あたりの大きさ」を活用する学習を計画しています。食材の代金について、食材の単体量当たりの代金を求め、その値を数倍するといった2段階の方法で比べることで、より安く買える店を考える授業を行います。目的に応じて大きさの比べ方や表し方を考察したり、日常生活に生かしたりできることに気付かせたいです。

6年生「比って便利だね! (比)」佐々木 亮 先生

多くの人を惹き付ける建造物や美術品、キャラクターを「比」と結び付ける学習を計画しています。日本でなじみがあり、大和比とも言われる「白銀比」を見だし、白銀比が用いられているものを調べたり、決められた比のよさについて考察したりする授業を行います。決められた比が日常生活の多くの場面で用いられてきたことに気づき、その数学的なよさを感じさせたいです。

- (3) 分科会 15:00~16:30

4 持ち物

- 事前に送られる資料、上靴、

5 その他

- 今回の役員当番部会は、6・8部会です。6・8部会の先生方には詳細をミライムにて別途お知らせしますので、よろしくお願いいたします。
- 今回は附属浜松小学校と附属浜松中学校の駐車場をお借りします。入口が異なりますので、どの部会がどちらの駐車場に停めていただくかの案内を後日ミライムにて送付します。御確認の上お越しく下さい。

なお、駐車時は児童生徒の移動と重なる場合がありますので御注意願います。

担当 笠井小 鈴木 慎也

算数のおもしろさ

浜松市立二俣小学校 岡田 朗

これまでに算数をおもしろいと感じたことがある方は多いと思います。その内容は人によって様々ですが、例として以下に2つまとめました。ただし、一方は ChatGPT によるものです。どちらがそれを当ててください。

A: 私が小学生の時、先生がおもしろい問題を出してくれました。それは「100 までの数字を全て足す問題」でした。やってみると不思議なことに興味が湧いてきました。1 から 100 までの数字を順番に足していくと、なんと合計は 5050 になるのです。この結果に驚きと喜びが込み上げてきました。先生はさらに 1 から 10 までの数字を 2 つずつ足すと、必ず 11 になると教えてくれました。この現象に私は夢中になり、論理的思考や問題解決能力が養われていくのを感じました。

B: 子どもの頃、私はある先生から問題を出されました。内容は『「上向きの矢印」「地面に立つハート」「雪だるま」「貫かれたエム」では、その次の記号は何でしょう?』というものでした。正解は「メロン」です。数字の 1 から 5 をそれぞれ重ね合わせた記号です。答えが分からなかった私は先生の説明に深くうなずくと共に、算数のおもしろさを感じました。

さて、ChatGPT の回答はどちらでしょう。正解は「A」です。「B」は私の経験です。ChatGPT はある言葉に続く次の言葉について、膨大なデータの中から確率の高いものを選んで文章にしていくと言います。それはある意味で数学的ですが、回答が一般的になりがちで、相手を見て答えたものではありません。「B」の内容はクイズのようにおもしろく、夢中になって考えた記憶があります。

子供は新鮮で具体的な事象を好みます。「クイズ形式」に好奇心を抱き、「ゲーム形式」に達成感を求めます。一人一人違う子供たちに、個に応じてどのように算数のおもしろさを感じさせられるのか、改めて追究していこうと思いました。



SDGs にも算数? 5年 単位数あたりの大きさ

浜松市立河輪小学校 高橋睦尚

最近よく聞く『SDGs』。世界が 2030 年までに達成すべき具体的な目標を立てました。それが「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」です。学校の授業でも理科や社会科、総合的な学習の時間での環境をテーマに学習しているのではないのでしょうか。その中に、3 番目の目標として「すべての人に健康と福祉を」があります。その 2 つ目のターゲットは、『すべての国で、生まれて 28 日以内に命を失う赤ちゃんの数を 1000 人あたり 12 人以下まで、5 さいまでに命を失う子供の数を 1000 人あたり 25 人以下まで減らし、2030 年までに、赤ちゃんや幼い子供が、予防できる原因で命を失うことがないようにする。』とあります。これを 5 年生の単位数あたりの大きさの学習に使えないのでしょうか。子供たちへの投げ掛けは「2021 年の日本の出生数は、約 81 万人です。その内、新生児(28 日以内)の死亡数は、約 640 人です。日本は、SDGs の目標を達成していると言えるでしょうか。」となります。割る数を 640 の 1000 倍にして計算しないといけません。一人あたりは学習したね。「1000 人あたりって、どう計算すればいいかな?」などと子供たちと一緒に算数を学びながら、世界に目を向けていくことができるのではないかと思います。

